

山田慶一 Cello Recital

歴史に埋もれかけた
天才作曲家アドルフ・ピアランの室内楽曲が
北海道の地で蘇る——

“まさに幻の作曲家！ 幻の楽譜！ そして幻の音楽！”

1900年前後のベルギーは仏独英米などと比肩し得るほどの芸術発信地で輝かしい存在感を放っていた…。

フランス語圏であるワロン地方の中心地シャルロワの音楽界のために全てを尽くそうとしたが、その悲願も虚しく大戦の犠牲となったアドルフ・ピアラン…

この作曲家の存在を知ったのは大学生の時。とある輸入CDを購入し、2曲しか存在しないピアランの室内楽曲を聴いた瞬間に彼の音楽世界にすっかり引き込まれてしまった。

しかし楽譜が見つからない。見つかったのはそれから約15年経った2020年から2021年にかけて…。神様、もしくはピアランが紡いでくれたような人と人の不思議な縁によって幻の音楽が響き渡る。



山田慶一 (チェロ)

Yamada Keiichi

長野県出身。新潟大学教育人間科学部芸術環境創造課程音楽表現コース チェロ専攻卒業。同大学選抜による定期演奏会、卒業演奏会に出演。国際スズキ・メソード音楽院を卒業。第21回リスト音楽院セミナー受講。

これまでに世界的に活躍するチェロ奏者の林峰男氏やフルート奏者のフェリックス・レングリ氏、フィリピンフィルハーモニック管弦楽団(in マニラ)等と共演する他、札幌市役所ロビーコンサート、北広島芸術文化ホールロビーコンサートなど多くの演奏会に出演。

これまでにチェロを北沢加奈子、宇野哲之、石川祐支、林峰男の各氏に、室内楽を田中幸治、館ゆかり、豊田耕児の各氏に師事。エマ・フェランド、ジャン＝ギャン・ケラス、マイクロシュ・ペレーニの各氏の公開レッスンを受講。

札幌音楽家協議会、ハイメスアーティスト各会員、北海道文化財団 HAF アーティスト。現在、スズキ・メソード北海道地区チェロ科指導者、北海道教育大学岩見沢校 非常勤講師を務めている。

Profile



長岡聡季 (ヴァイオリン)

Nagaoka Satoki

東京藝術大学室内楽科博士後期課程修了。博士(音楽)。フランス、イタリア、アルジェリア、韓国などの音楽祭に招かれるほか、台湾で4度のリサイタルを開催するなど、ヴァイオリニスト・室内楽奏者として国際的に活動。横浜シンフォニエッタのシーズンメンバーを務め、各地のオーケストラにゲスト・コンサートマスターとして招聘されている。ヴァイオリンを磯恒男、高橋孝子、大谷康子、若松夏美、岡山潔、松原勝也、ヴァルター・フォルヒャートの各氏に師事。東京藝術大学室内楽科非常勤講師を経て、北海道教育大学岩見沢校准教授。

、ヴァルター・フォルヒャートの各氏に師事。東京藝術大学室内楽科非常勤講師を経て、北海道教育大学岩見沢校准教授。



林ひかる (ヴァイオリン)

Hayashi Hikaru

札幌市出身。北星学園女子高等学校音楽科卒業。北海道教育大学岩見沢校 芸術課程音楽コース弦楽器専攻卒業。2008年からフィンランドのシベリウスアカデミーに留学。2014年、札幌音楽家協議会ハンガリー公演に参加。2018年2月には、日本シベリウス協会北海道支部主催のソロリサイタルを開催。また、クラシック以外の演奏会の自主企画やレコーディング、オーケストラの客員演奏も務める等、活動は多岐にわたる。これまでに6枚のCDをリリースしている。



今井佑佳 (ヴィオラ)

Imai Yuka

国立音楽大学附属高等学校を経て、同大学を卒業。草津国際音楽アカデミーマスタークラス、JSQによるPhoenix OSAQA 弦楽四重奏公開マスタークラス、ドイツにてヴォルフガング サバリッシュ財団主催によるセミナー、オーストリア Allegro Vivo 国際フェスティヴァル・サマーアカデミー参加。大山平一郎氏による音楽塾を受講。ヴィオラを遠藤幸男、川崎和憲、ハンス・ペーター・オクセンホーファー氏に、室内

楽を水島愛子、クレメンス ヴァイゲル、の各氏に師事。札幌音楽家協議会、ハイメスアーティスト会員。北海道文化財団 HAF アーティスト。



伊藤千尋 (ピアノ)

Ito Chihiro

札幌市出身。北海道教育大学札幌校芸術文化課程音楽コースを経て同大学大学院修了。幼少の頃より日本国内のピアノコンクールにおいて入賞を重ね、これまでにソリストとして札幌交響楽団などと共演した。また、2009年よりノルウェーのグリーグ音楽院へ留学し、インターナショナルディプロマを取得。アンサンブル能力を高く評価され、ベルゲン、オスロなど各地で世界各国の優秀な若手演奏家や指導者と共に多数のコンサートに出演した。現在は北海道内でソロ演奏や伴奏活動を行いながら後進の指導にも力を注いでいる。